

 <p>APRENだより 第15号</p> <p>APREN 長崎県技術士会 Association of Professional Engineering—Nagasaki 愛称: アイブレン</p>	<p>(社)日本技術士会九州支部 長崎県技術士会 平成18年10月1日発行・責任者 犬束洋志</p>
<p>平成18年度（1）研修会報告</p> <p>8月25日佐世保市の公民館にて、平成18年度の第1回研修会を開催しました。</p> <p>今回の研修会は、総会において協議した地方における「ミニ研修会」としての第1回目の研修会です。</p> <p>会の開催に当っては、佐世保地区在住の平原宏志副会長を始め皆様のご協力により立派な研修会となりました。会には長崎や島原地区よりも参加して頂き 21名と多くの出席での研修会となり、関係者及び参加者に感謝します。研修会後に懇親会を開催し情報交換など有意義な一時を過ごしました。</p> <p>この研修会を機会に、各地区の活動が活発化することを期待しています。</p> <p>今後は、定期的な開催となるように年間の計画を組んで行きたいと考えています。</p> <p>尚、次回は佐世保地区に引き続き「島原地区等」で開催を計画したいと考えています。</p> <p>時期は、平成19年1月に計画します。島原等での開催に当っては、開催地区的会員の皆様が世話役となっていただき実施したいと思いますので、ご協力を御願い致します。</p> <p>以下に、平原宏志副会長に研修会の報告を御願いしました。</p> <p>佐世保地区ミニ研修会報告</p> <p>長崎県技術士会副会長 平原 宏志（総監・建設）</p> <p>標記の「地区研修会」は役員会で決定したように、2名の講師を招き最新の技術について、会員の研修になるものを選定しました。これには、CPDの案内の通り、会員以外の技術者として城野清治氏（(株) 海洋開発技術研究所代表取締役社長）をお招きして「水の流れと技術開発」という講演を行って頂きました。</p> <p>この中で、造船技術者の集団で企業を設立したこと、そしてその開発した技術を売り込むことの困難さを痛切に感じたと述べられていました。技術開発とその技術が受け入れられることは別物と感じました。</p> <p>これを通じて技術者もプレゼンテーション能力を必要とするということがわかりました。城野先生の開発したものの一つに、ダム・湖沼用アオコ対策水質改善装置があります。これにも造船技術が使われており、ダムの水面に発生しているアオコを引き寄せプロペラにより底部へアオコを送り込み不活性化します。</p> <p>この湖水の流動は「流水不腐」といって、動いている</p>	
<p>水はアオコ発生や貧酸素問題は発生しません。</p> <p>このような技術開発は技術士にも良い勉強となりました。この技術は、矢筈ダム（佐賀県西川登町）で行われており、武雄佐世保道路を通られる時に見ることができると話されていました。このように、研究開発を行っている方の話を聞くことは技術士にとって将来に大変役に立つと思いました。</p> <p>次に、佐世保地区で長く技術士活動を行っている柏原公二郎先生（技術士：応用理学（株）昭和ボーリング 統括技術部長）の「アスベストの鉱物学的特徴と鑑定法」について報告します。</p> <p>この講演は時宜に合った内容であると思いました。“アスベストとは”から始まり、アスベストの成因プロセスを細かく説明して頂きました。それも映像を交えて、応用理学部門である地質年代をふまえての説明はわかりやすく新鮮でした。</p> <p>それから、アスベスト活用の歴史と特徴及び用途まで網羅して、いま“何が問題であるか”的・物理学的性質を通して鉱物学的分類まで及びました。</p> <p>このアスベストを的確に分類するための偏光顕微鏡の原理を、機材を交えてわかりやすく説明して、その偏光顕微鏡写真によりアスベスト3種（白石綿、青石綿、茶石綿）とガラス纖維の相違点、有効な分析方法を通してアスベストと人造纖維の違いを明確に説明して頂きました。これは、柏原先生が自ら偏光顕微鏡分析を行われたことにより説明できるものであり、すばらしい研究成果だと思います。</p> <p>以上が、講師の先生方と講演内容ですが、このあとの質疑応答も活発に行われました。この質疑応答は懇親会に引き継がれ、佐世保駅内の「日本海庄や」での2時間の懇親会は、“これも CPD にカウントして良いのじゃないか”という意見も出るよう、技術的で和やかな懇親会となりました。</p> <p>最後に、この研修会の世話役をはじめ、講師及び研修会参加者の方々にお礼を申し上げて、佐世保地区研修会の報告とさせて頂きます。</p>	

平成18年度後半の研修会開催等について

年度後半の活動計画等について、役員会を開催しました（平成18年10月5日、於NERC）ので、その会議内容についてご報告します。

1) 平成18年度テクニカルツアーオンライン開催について

本年度中に現地研修会を実施したく種々検討していますが、場所・費用・日程等を考慮した場合、現在のところ、適切な候補地の選定が出来ていません。

ところで、「民衆のために生きた技術者たち」（文部科学大臣賞、経団連会長賞、その他受賞多数）という映画が、各地でフォーラムと合わせ上映されています。この映画は、明治から昭和にかけて日本にとって1945年の敗戦に至る苦難の時代に、それぞれ画期的土木事業に成果を挙げた、青山士、八田与一、宮本武之輔の偉大な土木技術者3名の伝記映画です。

各地での開催には、日本技術士会等も参加されている由です。出来れば、このようなフォーラムの開催が出来ないか等について検討して行きたいと思います。

その他、会員の皆様でテクニカルツアーオンラインとして適した研修の場について、心当たりのある方は事務局までご一報下さい。

2) 第2回ミニ研修会について

次回は、長崎又は島原地区での開催とする。このための準備を今後進めて行きます。このため、皆様の要望、講師などの情報をお願いします。

3) 長崎県技術士会HPについて

本年4月に開設しましたが、会員による手作りのため、未だ十分な編集が出来てなく会員の皆様には、ご不便をかけています。

今後は、いつでも見ていただけるように更新して行きたいと考えています。そして、これが軌道に乗れば各自がHPへアクセスして頂き、機関紙、研修会、連絡事項等について、各自へのメール・郵送等での情報提供・送信ではなく、会員の皆様が自主的に直接見て受信して貰うようにして行きたい。

5) 「長崎県年鑑」へ掲載について

中央人事通信社より発行されている年鑑に、技術士会会員肖像入り名簿を毎年掲載していましたが、個人情報保護との関係もあり、本年の総会で来年より掲載を取り止めることとしました。

しかし、来年度は各団体が掲載されているように半ページ程度に、長崎県技術士会の案内を掲載することも考えています。これには、会の組織の目的、事務局、役員名簿程度の掲載となります。

本件についてご意見がありましたら、ご一報下さい。

6) 社会基盤維持管理研究について

橋梁、道路等の社会資本の維持管理は今後重要な問題となります。

長野県、青森県、山口県などでは、「アセットマネジメント」として実用化レベルまでになっているのです。長崎県においても、多くの社会資本があり今後はこれらの維持管理が課題と考えます。

青森県では、土木関連施設のみでなく、機械等も含んで研究して行くことを目的として取り組んでいることです。

このような背景の下で、長崎県技術士会も技術集団として、今後研究を重ねて行き社会に貢献する機会を作ることが重要と考えます。そこで、会として今後どのような取り組みが出来るか、検討メンバー等について考えて行きたいと思います。

会員の皆様へ、協力をお願いする際は宜しくお願いします。

6) NPO法人化について

長崎県技術士会は法人格がなく、業務委託受注などは出来ない組織となっています。

他の県では、NPO法人として組織し活動しているところがあります。

長崎県技術士会も、今後組織として具体的に活動するためには、法人化等について検討をしておくことも、必要かと考えています。

7) 研修会に対する会員の要望について

会員の方から、研修会について次のような主旨のご意見を頂きました。「これまで、自分の専門と縁遠いテーマが多いのですが、会員各位を対象に夫々の会員が、どういうテーマでレクチャーが出来るか、どういう研修を望んでおられるかについて、アンケートの実施をお願いしたい。会との関わりが殆どないので、接点が欲しい。宜しくお願いします。」

本件については、アンケートでの回答でなく、会員皆様のご意見を、事務局まで連絡いただきました。今後の研修会に活かしてゆきたいと考えていますので、宜しく御願い致します。

8) 「建設フェアー2006」について

長崎県建設技術研究センター（NERC）主催により、10月24～25日の期間、NERC（大村市）に於いて開催されます。これに、長崎県技術士会として後援しています。今後とも、各種行事に対応できるだけ後援・共催等を行ってゆきたい。

9) 九州支部の動きについて

来年、19年度より九州技術士センターが廃止にな

り「日本技術士会九州支部」に一体化されます。この期に現在発行の機関紙「技術士だより」の位置づけ、タイトル、A5からA4への形態変更等について検討が行なわれています。

環境と暮らしを支える森林・林業の再生に向けて

長崎県長崎林業事務所 宇土 和彰（建設部門）

私は平成18年の4月から、これまで十数年携わった建設工事から、林業振興の部所に配置変えとなった。そもそも、林業の専門職として入庁していたが、業務内容の違いに戸惑いながら一つ一つ解決する日々を送っている。

しかし、建設業と林業は、共通な面も多くある。特に生産性、品質、工期の視点からみた場合、林業も健全な経営を行うためには、綿密な施工計画＝原価計算を行わなければ利益を生むことが出来ない点が同じである。一方、大きく異なる点は、林業の場合、建設業に比べ自由な競争が進んでいないことと欧米などに比べ作業システムが遅れていると言える。

また、林業が行われる森林について、近年、全国的に森林を社会で支える重要性を背景として、「森林環境税」の創設されている。長崎県においても、去る8月6日に県主催による、「森林環境税に関するシンポジウム」が開催された。その主な趣旨は

①森林は、公益的機能の発揮を通じて、私たちの生活と深く結びつき、県民生活の安定に欠くことのできない「緑の社会資本」として、様々な形で私たちに恩恵を与えて

いる。
②国土の2/3を森林が占めているが、国産材価格の低迷や山村地域の過疎化などにより、森林を支える林業は、現在、深刻な危機に瀕している。

③都市部・下流域の住民も、経済的な面（税負担）で森林を社会全体で支えるべきではないか。
という内容であった。

今後、長崎県での導入の時期については、今年度中に判断される見込みとなっている。

このように、社会全体で森林を支え合う取り組みは重要なことであるが、それ以上に、森林を支える林業を再生させることも大切なことだと考えられている。

そのため、現在、私は、複数の森林所有者による施業の協業化（団地化）による作業ロットの拡大支援を主な業務としている。

今後とも、我々技術者が、日本林業の弱点を克服し、外材と競争できるシステムをあらゆる方面から構築していくかなければならないと考える。

技術懇話会の開催について

佐賀県武雄市の「佐賀宇宙科学館」において、NPO法人技術フォーラム主催の技術懇話会が11月25日（土）13時より開催されます。

本懇話会は長崎県技術士会の研修会の一環として、例年、長崎県技術士会より講師の先生を派遣し、又、会員皆様が出席YYYYYYされています。

本年度は、長崎県技術士会の久原俊之先生（水産部門）が講師として講演されます。

詳細については、後日ご案内しますので多くの皆様の出席を宜しく御願い致します。

事務局だより

1) 本号は、研修会、役員会関係を主に編集しました。

2) 会員の執筆は宇土和彰氏（建設部門）にお願いしました。

3) 年会費納入の御願い

長崎県技術士会の年会費が未納の会員の方には、納入方よろしく御願いいたします。

会員として「会則」にもありますように、2年以上の未納が無い様に御願いします。

4) 現在、長崎大学等で開催される「長崎地盤研究会」などの開催案内を会員各位へメールで送信しています。皆様の内で、研究会や講座案内などがありましたら事務局へご連絡いただければ会員の方へ連絡いたします。情報をお待ちしています。

又、九州支部においても、日本技術士会員でなくても参加できる研修会が開催されていますので、HPで検索され参加されることを、お勧めします。

5) 会員名簿

現時点（18年10月1日付）での、会員名簿を別紙のとおり添付します。

内容の変更がありましたらご連絡下さい。

6) 会の活動等に関する提案や自由なご意見等、本機関紙への投稿をお待ちしております。

会員皆様の要望、意見、各種情報等も下記までお寄せください。

長崎県技術士会に関する連絡は、下記へお願いいいたします。

西日本菱重興産株式会社土木部 大橋 義美
〒852-8136

長崎市神の島町3丁目9番9号

TEL 095-865-5200

FAX 095-865-5880

E-mail : yoshimi_oohashi@west-ryoko.co.jp